

【活用にあたって】

古文の授業では、何よりも古文に親しむ態度を育成することが大切です。暗唱し古文特有のリズムを感じ取ることも重要ですが、その古文がどんな内容価値を持っているのかがつかめなければ、古文への興味・関心は高まらないでしょう。

高める方法の一つとして、児童生徒向けに現代語で易しく書き換えられた本を読み、作品の内容の大体を知るといった活動があります。これを通して、時代・社会・言語・文化に変化はあっても、同じ国に住む人間として喜怒哀楽の情には大きな差異がないということを理解させたいと思います。生涯にわたって古文に親しむ態度を育成するには、何よりも古文を身近に感じさせることが大切です。

解答例

問：（狂言の）基本動作、発声

発展1：能、人形浄瑠璃、歌舞伎、落語など

発展2：児童生徒向けの狂言集が出版されています。図書館で探すことで、他の古文に出合うことができるかもしれません。自分の気に入った狂言のお話を紹介し合うのもいいですね。